



HOKKAIDO! ECO

地球の“いま”と向き合い、“いま”に気付いて、“いま”から思いやりのある行動を

地球にやさしい・エコプロジェクト



554万haって
どれくらい
の広さ?



何と札幌ドーム3,831,258個分!

わたしたちが暮らす北海道の森林面積は約554万ha(ヘクタール)。一口に『554万ha』と言われてもピンと来ないかもしれませんが、これを札幌ドーム(クローズアリーナ・14,460㎡)に置き換えると約383万1,258個分にもなります。野球観戦などに行ったことのある人なら、その大きさが何となくイメージできるのではないのでしょうか。

北海道の森林は“1人=1ha”

554万haにおよぶ森林は、北海道の総面積の約71%を占める圧倒的な広さ。天然林の割合が高いのも特徴で、全国の天然林面積の4分の1以上を占めています。また北海道の人口は約560万人(2007年6月現在)ですから、道民1人あたりの森林面積はほぼ1ha。これは全国平均の約5倍で、北海道の自然の雄大さがよく分かる数字です。

554万haの森林は
どのくらいのCO₂を
吸収できるの?



森林が大気中のCO₂を吸収・貯蔵

森林は光合成の働きによって、温室効果ガスである二酸化炭素(CO₂)を吸収して貯蔵する役割があります。地球温暖化の進行を防ぐために、森林はとても重要な存在なのです。日本が京都議定書で約束した温室効果ガスの削減目標である6%のうち、3.9%は『森林による吸収』が想定されていることから、その大切さが分かります。

樹齢50年のトドマツで計算すると……

道民1人あたりの1年間のCO₂排出量は約3.56t。これを1年で吸収するには樹齢50年のトドマツなら約1.2haが必要。実際には木の種類や樹齢によって数値は大きく変化しますが、仮に北海道の樹木がすべて上記の『樹齢50年のトドマツ』として計算すると、554万haの森林が1年間に吸収するCO₂の量は約1,643万5,000tにもなります。

地球環境
ノート

VOL. 3

「北海道発・地球環境ノート」は、「地球温暖化」防止に向けた温室効果ガス6%削減を実現するために、世界・日本・北海道の環境の“いま”や今すぐ実践できる“地球にやさしい生活”をシリーズでお伝えします。

554万ha

シリーズ3回目のキーワードは
“554万ha(ヘクタール)”。

豊かな自然が広がる北海道の中で、
森林が占める面積がこの554万ha
(2006年4月1日現在)です。

緑の森は人に安らぎを与えてくれるだけでなく、
地球温暖化の防止にも役立つ大切なパートナー。

いま、その働きと存在の大きさが
あらためてクローズアップされています。

この「地球環境ノート」をきっかけに、
森と人間の関係をもう一度考えてみましょう。

地球上の森林は
増えている?
減っている?



1年間に730万haの森林が消滅

国連食糧農業機関(FAO)によると、世界の森林面積は今世紀に入って毎年平均730万haずつ減少しています。北海道の面積は約780万haですから、それとほぼ同じ広さの森林が毎年失われているのです。特にアフリカや南アメリカでは、農用地への転用などにより急速に森林破壊が進行しています。いま地球上の森林は危機的状況にあるのです。

かけがえのない自然を守るために

この急速な森林破壊に対し、世界も動き始めています。今年9月のAPEC(アジア太平洋経済協力会議)で採択された『シドニー宣言』では、地域内の森林面積を2020年までに2,000万ha以上増加させる目標が定められました。2,000万haといえば本州とほぼ同じ広さ。実現のためには、この地球に生きるわたしたち一人一人が力を合わせなくてはなりません。

温暖化防止のために
みんなで木を
植えよう!



『10億本植樹キャンペーン』って?

現在、国連環境計画(UNEP)では『10億本植樹キャンペーン』を行っています。2004年度のノーベル平和賞受賞者であるワンガリ・マータイさんと連携して、2007年末までに世界中で10億本の植樹を行う国際的なプロジェクトです。未来の地球環境を守るために、いま国や企業・市民団体・個人の垣根を越えたネットワークが世界中に広がっています。

あなたもキャンペーンに参加しよう

このキャンペーンはインターネットを通じて気軽に参加できます。2007年末までに植樹を予定している方は、個人・組織問わず参加・登録が可能です。また植える本数も1本からOK。温暖化防止のために、地球の未来のために、わたしたちの故郷・北海道に木を植えてみませんか。

○UNEP「10億本植樹キャンペーン」のお知らせ

<http://www.rinya.maff.go.jp/seisaku/sesakusyukai/billiontree/billiontree-top.html>

はじめよう

「地球にやさしい生活」

-1kg

アイドリングを
控えてCO₂削減



全国でも特に自動車の利用率が高い北海道。そこで注意したいのが駐車時時の『アイドリング』です。たとえ走らせていなくても、車はエンジンをかけているだけでガソリンを消費します。それは同時に、地球温暖化を進行させるCO₂を排出し続けることにもなるのです。

冬こそしっかり“エコドライブ”を

こまめにムダを省くのが省エネの基本。1日10分間のアイドリングストップで、年間50ℓも燃料が節約できます。人の乗り降りや荷物の積み降ろし、コンビニに立ち寄る時やサービスエリアでの休憩など、1分以上の停車時にはエンジンを切るように心掛けましょう。

また寒さの厳しい北海道では発進前にエンジンを暖めておく『暖機』を習慣にしている人も多いようですが、実はコレ、性能が向上した最近の車にはほとんど必要がないと言われています。

参考：北海道環境局環境政策課「アイドリングストップ・フリーフレット」、環境省「チーム・マイナス6%自動車の使い方で減らそう」

小野有五
の
伝言板



トータルアドバイザー
小野有五氏(おの・ゆうご)
北海道大学・大学院
地球環境科学研究院教授

ドングリの森のメッセージ

夏にドングリの森に行きました。太陽を浴びて、たくさんの葉っぱが、懸命に光合成をしていました。木だって息をしますが、そのとき出す量より多くのCO₂を吸収して、幹を太らせたり、枝を伸ばしたり、ドングリを大きくしたりするのです。

秋にドングリの森に行きました。ドングリがボトリと落ちていきます。黄色くなった葉っぱは、風が吹くと散っていきます。年を取って、倒れてしまった木もありました。落ち葉や倒木は腐って土になり、中のCO₂は、姿を変えて土に蓄えられます。でも、その途中で空気になって出ていくCO₂もあります。ドングリを食べたのはリスくんでした。ドングリになったCO₂はリスくんのウンチになって土に戻り、いつかリスくんが死ぬと、リスくんの体にあったCO₂も空気に戻っていきます。木は、人間のように余分なCO₂を出すことはありません。吸収した分だけ、いろんな形で長く蓄えてくれて、いつかは全部空気に戻すのです。これを「カーボン・ニュートラル」といいます。わたしたちも、木を見習っていきたいですね。

小野有五